鳥取大学産学・地域連携推進たより

2012.夏

巻頭言

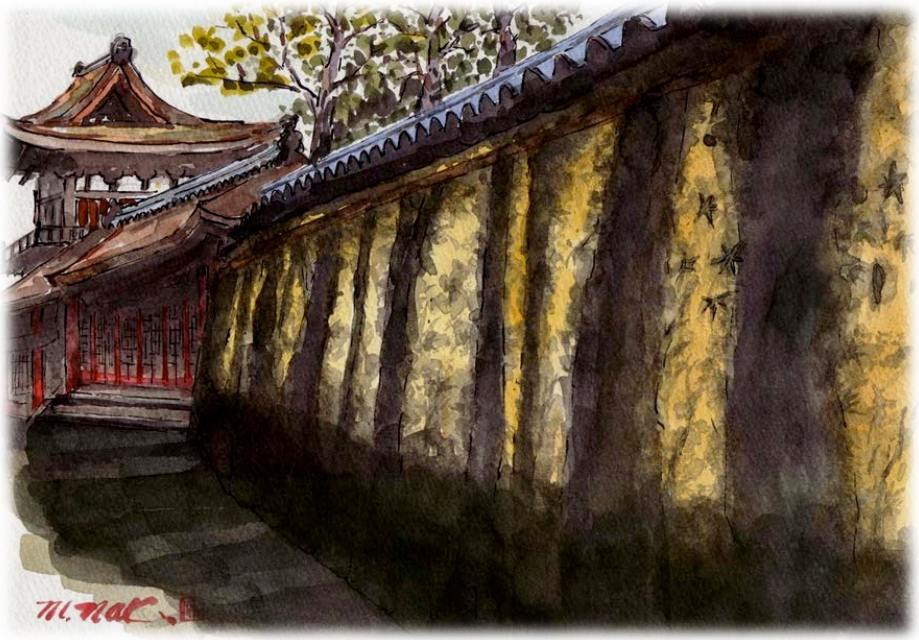
「言うは易く行うは難し」

鳥取大学　産学・地域連携推進機構
米子地区地域連携部門　部門長（医学部・教授）
黒沢　洋一

文部科学省の平成 22 年度大学等における産学連携等実施状況（平成 23 年 11 月 30 日）報告によると、鳥取大学の産学連携の実績は、民間企業との共同研究実績が 179 件で全大学中 23 位、中小企業との共同研究実績では、95 件で 19 位であった。特許権出願件数は 74 件で、全大学中 28 位であった。鳥取大学の規模、周辺の人口、企業数などを考慮すると、全大学の中でも大健闘だと思う。

この報告書には、大学発ベンチャーの全体の設立数（大学発ベンチャー調査 2010－科学技術政策研究所）の推移も示されている。大学発ベンチャーの設立数は、平成 16・17 年度にピークを迎えて全国で 252 件であったが、その後急激に減少し 22 年度は 47 件となっている。この減少の要因として、景気悪化、それに伴う資金調達や販路開拓の難しさ、成功事例が少ないこと、起業リスクの大きさ、大学や国の支援不足、教職員の教育・研究業務の忙しさ等が挙げられている。どれもさもありなんと思う要因である。大学と企業では本来の目的が異なるので、難しいのが当然であるといえば当然である。「言うは易く行うは難し」である。目的の異なるものをあえて繋げるためには、個々の努力だけでなく新たな仕掛けや思いきった工夫が必要なのだろう。

私も、産学連携事業に短期間ではあるが関わってきて、お客様から買っていただける商品やサービスを提供し、しかも採算をあわせることがいかに難しいかを身に染みて感じる。個人的にも「言うは易く行うは難し」と痛感している次第である。



未来への光

光あればこそ影もできる。産学・地域連携を成功させるには、利益相反問題を克服しなければならない。シーズとニーズはマッチングさせねばならない。黒沢部門長の苦悩を築地塀に映る光と影として描いた

（絵・文：中村宗和名誉教授）

行動憲章

私たちは、地域社会から期待される存在となります。
私たちは、「利益相反」を克服した産官学連携を推進します。
私たちは、知的付加価値を高めるための自己研鑽に努めます。
私たちは、連携の実を上げるべく、学外者に対し敬意を持って接します。
私たちは、専門領域の異なる人材の幅広い協調を計ります。
私たちは、産官学各界が互いに情報を共有するよう努めます。

①研究推進に関する事業報告

1. 鳥取大学　産学・地域連携の集い 2012　【4 月 9 日(月)　開催：鳥取大学広報センター】

この集いには、井藤理事、林理事、産学・地域連携推進機構に係わっている教職員等（客員教授、プロジェクト研究員を含む）が一堂に集まり、第１部は、参加者の自己紹介のあと、菅原機構長が事業概要の紹介、そのあと各部門の事業紹介、研究・国際協力部からの話があり、最後に参加者が意見交換を行いました。第２部は、懇親会を開催しました。この取組により、参加者は本年度に本機構として取り組む事業概要や活動方針の周知・確認を行うと共に、お互いを知る機会を得て、交流を深めることができました。この集いの参加者は、第１部が38名、第２部が32名でした。

2. KNS 第 37 定例会 in YAO で TNS 発表　【5 月 12 日(土)　開催：八尾商工会議所会館】

とっとりネットワークシステム（TNS）は、関西ネットワークシステム（KNS）の招聘を受け、この第37定例会 in YAOでTNSの本学関係者が発表を行いました。菅原機構長は、「とっとりネットワークシステム（TNS）の現状について」と題して、活動報告会（全体会）でTNSの活動を紹介しました。プレゼン大会では、田中研究推進部門長が「わが鳥取大学産学・地域連携推進機構－関西地区での活動を中心として」と題して、本学と産学・地域連携推進機構、および関西地区での本機構の活動の一端を紹介、地域学部地域環境学科の寶來佐和子准教授が、「TNS入門－TNS全体会に参加して」と題して、TNSを活用しての地域貢献の重要性を発表しました。鳥取県関係者は、他に鳥取県産業技術センター企画総務部の山田強企画室長、鳥取県立図書館の小林隆志支援協力課長、清水亮資料課司書が参加しました。交流会では、本学と鳥取県のマスコットキャラクターのトリリン（寶來准教授）とトリピー（清水氏）、および「まんが王国とっとりPR隊」が、参加者との記念撮影などを行って、広報に努めました。参加者は約300名でした。

3. はりま産学交流会　【5 月 18 日(金)　開催：姫路商工会議所】

産学交流会の参加者は、企業・一般約 45 名、大学関係約 17 名、関係団体等約 18 名の総勢 80 名であり、多くの熱意ある中小企業を主体としているのが特長です。兵庫県立大学、大阪府立大学、関西大学、近畿大学、神戸大学、鳥取大学の 6 大学が 2 つのグループに分かれシーズ発表を行った後、大学毎 6 部屋に分かれ、突っ込んだ情報交換を行いました。本学からは工学研究科機械宇宙工学専攻の上原一剛助教が「電子ビーム照射による表面改質技術とその適用事例」を発表され、新しい電子ビーム照射技術の活用について意見交換がなされました。

4. 外部資金説明会　【6 月 5 日(火)　開催：鳥取大学広報センター】

参加者37名のもと、JST研究助成金である「A-STEP」、「先端計測分析技術・機器開発プログラム」、「産学共創基礎基盤研究プログラム」、「社会技術研究開発」の説明を地域貢献・生涯学習部門の前波晴彦講師（前JST イノベーションサテライト静岡コーディネートスタッフ）が行い、続いて鳥取県、鳥取県産業振興機構研究助成金等の説明を研究推進部門の長島正明准教授が行いました。

さらには研究助成情報マッチングシステムについて説明を行い、①先生方に欲しい情報（研究分野、ステージ、助成金額）を新規登録すると、それにマッチした研究助成金が募集されたときだけメールを受け取ることができる。②受信メールには事業名以外に、分野、助成金情報なども記載されており、簡単に助成の概要を知ることができる。③ホームページ上でも欲しい情報が表示され、また他の研究分野情報の閲覧やその絞込検索も容易にできる、などの有用性を紹介し、利用の呼びかけを行いました。

5. 一日・はりま産学交流会 in 書写キャンパス

【6 月 22 日(金)　開催：兵庫県立大学書写キャンパス】

このイベントは、はりま産学交流会のメンバーがブース（72 ブース）を持ち、パネル・商品展示によりビジネスのマッチングを行うことを主な目的としています。加えて「多くの先生方と学生に、会員企業はどんなものを作っているのか、どんなことに興味があるのか知ってもらう」、「会員企業が多くの先生方と知り合いになる」といった大きな目的が設定されていました。その趣旨に沿い、県立大学関係のブースが 14 あり、各々のブースでは 2 テーマを発表していました。パネル展示とともに、「日本一明るい経済新聞・編集長・竹原信夫氏」の司会で 12 社がプレゼンテーションを行いました。企業関係者とともに多数の教員・学生が参加されました。

②地域貢献・生涯学習に関する事業報告

1. 地域安全工学センターオープン　【4 月 2 日（月）: 工学部附属地域安全工学センター】

工学部附属地域安全工学センター開所式を挙行しました。香川大学危機管理研究センターの白木センター長及び徳島大学環境防災研究センターの中野副センター長の記念講演が行われました。また、鳥取県危機管理局の城平局長が遠隔会議システムにより参加されました。本センターは、東日本大震災を受けて、本学の研究を地域社会の安全・安心と持続的発展に寄与する目的で設置したもので、今後、防災システムの構築や防災士資格取得の支援、地域公共システムの構築・整備、交通、防災および生活に関する地域情報のシステム化などに取り組みます。

2. 第 6 回北東アジア地域大学教授協議会　【4 月 3 日（火）: ダイキンアレス青谷】

鳥取大学主催、鳥取環境大学、鳥取短期大学、米子工業高等専門学校共催で第 6 回北東アジア地域大学教授協議会（NAPA2012）を開催しました。第 1 回会議は、平成 19 年 10 月に鳥取市で開催されました。「北東アジア地域の持続的発展における大学の役割〜大学間ネットワークの構築〜」をテーマとした今回の協議会では、NAPA を大学全体の取組にすることを目指し、初の試みとなる学長会議を行いました。

協議会には、海外から、吉林大学（中国）、中国人民大学（中国）、江原大学校（韓国）、翰林大学校（韓国）、尚志大学校（韓国）、モンゴル国立大学（モンゴル）、極東連邦大学（ロシア）の 7 大学の学長等及び政府機関の関係者 19 名が参加しました。

3. とっとり駅南教室開講　【4 月 7 日（土）: 鳥取市立中央図書館】

鳥取市立中央図書館で、とっとり駅南教室「マクロ経済・世界の投資環境」が、講師に野村證券米子支店ファイナンシャルアドバイザーの中嶋智正氏を迎えて開催されました。この鳥取大学・野村証券連携講座は、4 月 7 日から 6 月 16 日の間に全 5 回開催予定で、7 月以降は本学講師による講演を開催します。

4. 平成 24 年度第 1 回産学・地域連携推進室連絡会及び西部連絡会開催

【4 月 10 日（火）: 産学・地域連携推進機構、4 月 19 日（木）: 医学部旧保健学科棟】

県内機関の産学金官連携を深めるため、平成 17 年 1 月より毎月 1 回第 2 火曜日に開催しています。今年度第 1 回目の連絡会では各機関と本学からの報告の後、本学地域貢献・生涯学習部門の清水克彦副部門長が、産学・地域連携推進機構の歩みとその役割、組織体制及び事業内容について説明し、参加者へ協力要請を行いました。

また、西部では、二か月に 1 回程度第 3 木曜日に医学部で開催しています。各機関の最新の情報や意見交換、そして地元企業により特徴ある技術や取組み等を紹介していただくなど、参加機関の業務のお役に立てる連絡会になるよう心掛けています。今年度第 1 回目の連絡会では、鳥取大学発ベンチャー（株)楽人の木下秀敏代表取締役にご出席いただきました。好熱菌資材による栽培等の説明に対し、参加者は熱心に耳を傾けていました。

5. 鳥取銀行寄附講座「マーケティング論」開講　【4 月 13 日（金）: 鳥取大学共通教育棟】

株式会社鳥取銀行による寄附講座「マーケティング論」が開講いたしました。今年で 6 回目となります。

本講座では、企業におけるマーケティングを如何に発想するかを論理的に考え、また、様々な角度からマーケティングを捉えることを目的としています。講義内容は学生の就職を見据えたものとなっており、96 名の受講生が熱心に受講しています。講座後半には、各分野の第一線で活躍されているスペシャリストを特別講師として招き、マーケティングの核心に迫ります。

6. 鳥取県商工労働部等との意見交換会の開催

【4 月 13 日（金）: ホテルモナーク鳥取】

鳥取県商工労働部、鳥取県産業技術センター、鳥取県産業振興機構及び本学が互いの連携を図ることを目的に意見交換会を開催しました。今回で 7 回目となる意見交換会では、約 40 名の幹部職員が参加し、各機関の平成 24 年度事業説明及び連携施策の説明を行うとともに、一層の連携強化を申し合わせました。

7. サイエンス・アカデミー「安全・安心な地域づくりをめざして」開講

【4 月 14 日（土）: 鳥取県立図書館】

今年度第 1 回目のサイエンス・アカデミーを開催しました。4 月〜6 月のテーマは本学の教員が行っている減災・防災についての研究内容に関するものです。今回は藤村尚名誉教授が「巨大地震による液状化と津波被害を考える」と題して講演を行いました。講演では東日本大震災で発生した液状化現象の例を紹介しながら鳥取

地域での液状化現象の可能性や対策について説明がなされました。昨年 3 月 11 日の東日本大震災以降、防災・安全等への関心も高く、多くの聴講者から質問がありました。

8. 暮らしの経済・法律講座開講　【4 月 16 日（月）: 鳥取大学】

悪質商法の手口や消費者を守る法律、民法から労働法までくらしに役立つ法律、環境問題、投資やお金の話など、各分野の専門家がわかりやすく説明する「暮らしの経済・法律講座」が 4 月から 7 月まで計 14 講座開設されます。この講座は、県消費生活センターとの連携講座で、第 1 回目は「最近の消費者トラブルから」というテーマで、（社）日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会中国支部会員の安本 知代氏を講師として開催され、一般 56 名、学生 172 名の参加がありました。

9. 鳥取県内４市と鳥取大学との連絡協議会の開催　【4 月 18 日（水）: 倉吉市役所】

本学の地域貢献や産学官連携等について、県内四市との一層の連携強化を図ることを目的とする「鳥取県内四市と鳥取大学との連絡協議会」を倉吉市役所において開催しました。

今回で 8 回目となる同協議会には各市の市長、幹部職員、本学学長、理事、副学長等３５名が出席し、防災体制の強化、医師確保、中山間地振興、農業振興への協力等について積極的な意見交換が行われました。また、会議に先立って明治製作所（倉吉市駄経寺町）の視察会も行われました。

10. ものづくり協力会議総会　【4 月 19 日（木）: ホテルセントパレス倉吉】

総会には、役員と会員 42 人が参加しました。本学の林理事の挨拶の後、本協力会の会長である地域学部の土井教授から新役員の紹介、昨年度の事業報告、事業外部評価、収支決算についての報告と本年度の事業計画案と予算案の説明があり、全会一致で承認されました。

また、各地区のものづくりカフェの活動実践報告も行われました。

11. 「鳥取大学みらい基金」寄附金受け入れ調印式

【4 月 20 日（金）: 鳥取大学広報センター】

株式会社鳥取銀行から鳥取大学みらい基金への寄附金受け入れに係る調印式を行いました。

能勢学長は「使途をしっかり考え、地元に貢献する人材養成につなげたい」と謝辞を述べ、宮**﨑**正彦鳥取銀行代表取締役頭取は、「基金名のとおり、学生の未来と地域の未来のために役立てて欲しい」と期待を述べられました。鳥取大学みらい基金は、平成 21 年に本学が創立 60 周年を迎えたことを機に、財政基盤のさらなる充実・強化を図るために設立されました。

12. とっとり防災・危機管理研究会　【4 月 26 日（木）: 工学部附属地域安全工学センター】

平成 24 年度第 1 回目の研究会を 4 月 2 日に設置された「地域安全工学センター」で開催しました。関係機関から 29 名が出席し、平成 23 年度の事業報告、平成 24 年度の事業計画について活発な議論がなされました。

また、工学研究科の松見教授から平成 23 年の学長経費による研究成果として「キャンパスの危機管理体制の充実化のための支援システムの構築」の報告がありました。

13. とっとり産業フェスティバル 2012 実行委員会

【5 月 1 日（火）: 鳥取大学、6 月 4 日（月）: 米子コンベンションセンター】

平成 24 年度のとっとり産業フェスティバルに向け、5 月 1 日（火）に第 1 回実行委員会（参加者：25 名）、6 月 4 日（月）に第 2 回実行委員会（参加者：27 名）を開催しました。フェスティバルは 10 月 5 日（金）、6 日（土）に米子コンベンションセンターで開催することに決定しました。また、組織体制、各分野のリーダー、役割分担、今後の日程について決定するとともに、ポスター発表の充実や併催する事業等について検討を行いました。今後は、各分野のリーダーのもと、検討を重ねながら準備を進めていきます。

14. 第 9 回文化芸術の夕べ　【5 月 7 日（月）: 地域学部附属芸術文化センター】

鳥取大学と鳥取県及び地域の文化活動に熱心に取り組んでいる機関が連携を促進することを目的として、「文化芸術の夕べ」（主催：地域学部附属芸術文化センター）が開催されました。鳥取県文化観光局文化政策課課長外、44 名の参加者があり、産学・地域連携推進機構（地域貢献・生涯学習部門）からは 9 名が参加しました。意見交換会では、各機関の活動紹介があり、アート・プラザに場所を移しての交流会では、和やかな雰囲気の中、活発な情報交換を行いました。

15. 湖山西まちづくり協議会と鳥取大学との情報交換会

【5 月 10 日（木）：鳥取大学広報センター】

本学に隣接する湖山西地区のまちづくり協議会と本学との情報交換会を開催しました。学生や教職員の路上喫煙の禁止や自転車の交通マナーの向上、防災体制の強化等について、積極的な情報交換の場となりました。

鳥取大学としては、今回の情報交換会を踏まえ、必要な改善措置を講じることとしております。

16. 第 9 回鳥取大学と鳥取県教育委員会との意見交換会開催 【5 月 14 日（月）：白兎会館】

本学と鳥取県教育委員会との意見交換会を開催しました。この意見交換会は、鳥取県の教育の充実及び発展に資する目的で毎年 1 回開催しているもので、第 9 回目となる今回は、本学からは能勢学長、理事、副学長、学部長及び附属学校部長等が、県教育委員会からは横濵教育長をはじめ教育次長、次長及び関係課長等が参加し、「学力向上のための取組み」や「大学の秋入学」等について活発な意見交換が行われました。

17. グランマ倶楽部 5 期開講 【5 月 20 日（日）：とりぎん文化会館】

本学では、明治大学、鳥取県と連携して、平成 20 年度から「とっとりグランマ倶楽部」連携講座を開催しています。本年度は「安全・安心な社会を目指して」をテーマとして第 5 期の講座を開講し、受講生が開講式に出席しました。

開講式後、グランマ倶楽部 5 周年記念として、明治大学の北野 大教授による特別講義（テーマ「安全・安心な社会を目指して 食料と水の安全・安全保障」）が行われ一般来場者を含め、約 100 名が聴講しました。

18. 鳥取大学持続的過疎社会形成プロジェクト講演会及びシンポジウム

【5 月 22 日（火）、23 日（水）：鳥取大学広報センター、6 月 4 日（月）：工学部大講義室】

5 月 22 日、23 日に持続的過疎社会形成プロジェクトによる講演会が日本水工設計(株)東京支社副支社長の藤木修氏を迎え「水に関する国際的な話題」という演題で行われました。二日間で、約 130 名が聴講し、熱心に聞き入っていました。

また、6 月 4 日にはシンポジウム「大学と地方と国をどうする」が開催され、神戸大学の小池教授、滋賀大学の柴山准教授、本学から細井教授と谷本教授が参加し、地方大学や地方自治体の今後の役割等について議論が行われ、約 50 名が聴講しました。

19. 平成 24 年度鳥取大学と鳥取県企画部との意見交換会の開催

【5 月 24 日（木）：鳥取県庁】

鳥取県企画部と本学の意見交換会を開催しました。両機関から約 25 名が出席し、活発な意見交換が行われました。両機関の連携を一層強化しながら、中山間地域振興、公共交通施策、地域貢献、ものづくり等の各種施策を協力して進めることを申し合わせました。

20. 第 16 回因幡の手づくりまつり【5 月 27 日（日）：鳥取市智頭街道】

今年 16 年目を迎えた因幡の手づくりまつりは、鳥取市内の智頭商店街において、商店街関係者、職人、大学生、ものづくり道場カフェメンバーら 300 人のスタッフが、46 ブースを出展し、1,300 人の子ども達や保護者を迎えました。当日は好天にもめぐまれ、地域と連携することで盛況な手づくりまつりとなりました。出展ブースは、遷喬小学校の児童が参加者に教えるブースをはじめ、光る染め物、和菓子、和紙、泥団子、など伝統的なものづくりから電子工作の科学・技術的なものづくりまで幅広いブースで、子ども達は、多彩な講師陣から工夫の凝らされた質の高いものづくりを学びました。

21. 中部はひとつ！物産館ことうら祭り

【6 月 2 日（土）、3 日（日）：物産館ことうら】

鳥取県中部の観光・物産の魅力を発信するイベントとして、「中部はひとつ！物産館ことうら祭り」が開催されました。本学も本学と連携を進めている四町（大山町、日南町、南部町、琴浦町）と協力して「鳥取大学派遣四町ＰＲブース」を出展し、竹するめなど 4 町の特産品等をＰＲしました。

22. 平成 24 年度第 1 回鳥取大学・日南町ワーキンググループ会議

【6 月 8 日（金）：産学・地域連携推進機構研修室】

今年度第 1 回目となるワーキンググループ会議を、医学部と TV 会議システムで中継し開催しました。林理事や中村日南町副町長をはじめとして 20 名の出席がありました。地域貢献支援事業や過疎プロなどの連携事業計画の確認や、空き家対策、インターンシップ事業といった日南町からの話題提供に対して意見交換を行いました。

次回は 11 月頃に開催し、連携事業の進捗状況や来年度以降の新たな課題について協議する予定です。

23. 米子ものづくり道場「第 6 回指導者養成講座」

【6 月 9 日（土）、10 日（日）：米子市児童文化センター】

今年度初めての指導者養成講座を開催しました。ものづくりの面白さ・楽しさ、ものづくりの意義、子どもの発達とものづくりなど、実践に役立つ指導方法について実技をとおして具体的に学びました。二日間で 21 名の参加があり、道具の基礎的な知識や樹脂粘土を使用したブローチ等を作成しました。

24. 公開講座開講　【6 月 9 日（土）：鳥取大学広報センター】

平成 24 年度公開講座「知の最前線〜危機の時代を生き抜くには〜」が開講しました。昨年 3 月の東日本大震災を教訓にして、各学部の研究の中で、安全・安心に関連し、県民の方々の注目度の高い 6 テーマについて講義が行われます。初日には、46 名の参加がありました。受講生は熱心に聞き入り、講義後の講師への質問では関心の高さがうかがえました。今後、7 月には米子キャンパスで、9 月には倉吉市内で開催します。

25. 平成 24 年度大山町と鳥取大学の連携促進のための意見交換会

【6 月 15 日（金）：鳥取大学広報センターほか】

大山町から小西副町長を始め 12 名の幹部職員と鳥取県西部総合事務所県民局の山**﨑**局長が来学され、大学側からは 11 名が参加し意見交換会が開催されました。

意見交換会では、連携事業の進捗状況や大山町での観光・公共交通等について活発な意見交換がなされました。

また、意見交換会終了後は工学部附属地域安全センター、工学部水理実験室及び農学部附属菌類きのこ遺伝資源研究センターを見学しました。

26. 琴浦町農林水産業活性化研究会　【6 月 20 日（水）：琴浦町役場分庁舎】

本年度第 1 回目の研究会が開催されました。本学林理事、能美教授（農学部）を含め 22 名が出席し、本学との共同事業である芝結束機の開発や GIS の利活用、畜産堆肥の有効活用、一次加工施設の調査等、本年度の研究会活動計画について活発な議論がなされました。

27. 大山・日野川・中海学協会総会　【6 月 25 日（月）：全日空ホテル（米子市）】

6 月 15 日の幹事会での議論を受け、平成 24 年度総会が米子全日空ホテルで開催されました。会長である能勢学長のあいさつの後、今年度の事業計画や予算について審議されました。10 月〜11 月に開催するセミナーでは、今年はテーマを広く設定し、県のまんが王国とっとり関連事業とも絡めて実施することとなりました。

また、総会に先立って昨年度実施の検定試験の最高得点者への表彰状と記念品の贈呈も行われました。

総会終了後には、大山町教育委員会の西尾秀道課長補佐による「大山寺僧坊跡の保護について」と題する講演会も開催されました。

28. 第 1 回 4 町企画担当課と鳥取大学の意見交換会

【6 月 29 日（金）：鳥取大学広報センター】

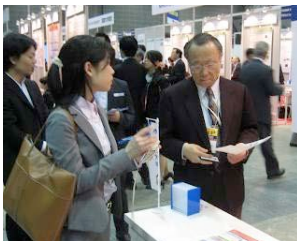
本学に職員派遣を実施し連携を進めている 4 町（大山町、日南町、南部町、琴浦町）と、林理事、安藤地域学部長、土井部門長をはじめとした本学教職員が一堂に会して初めて意見交換を行いました。連携事業や地域活性化施策等について各町の企画担当課から説明や要望があった後、共同で取り組む企画事業の提案がなされました。

また、会議終了後には懇親会も行われました。今後もこのような意見交換会を定期的に開催し、本学の地域貢献の一層の推進を目指します。

29. 県農林水産業産学官技術会議【6 月 29 日（金）：農学部会議室】

本会議は県内の農林水産業の生産現場が抱える様々な課題を解決するため、農林水産業団体、県機関及び本学の関係者が一堂に会して試験研究に係る役割分担調整や意見交換を行い、本県農林水産業の発展を目指す会議です。今回で 6 回目となる本会議には、澤 JA 全農とっとり営農・畜産部次長他農林畜産団体、西山鳥取県農林水産部長をはじめ各公設試験研究機関の長及び本学からは井藤理事、北村農学部長など約 50 名が参加し、生産現場からの要望・課題などの対応について討議しました。

③知的財産管理運用に関する事業



1. バイオテック 2012 アカデミックフォーラム

【4 月 25 日（水）～27 日（金）：東京ビックサイト】

バイオ分野の国際展示会である当フォーラムに本学からは、特許出願技術を中心に、農学部 南三郎教授、大学院医学系研究科 汐田剛史教授、大学院工学研究科 櫻井敏彦 准教授および生命機能研究支援センター 大林徹也 准教授の 4 テーマの口頭発表及びブース展示を行い、口頭発表ではそれぞれ 50 名を超える聴衆者が集まり大盛況でした。会場では、企業関係者と発表者との熱心な質疑が交わされ、今後の展開が大いに期待できる展示会でした。

2. 平成 23 年度下期中国地域産学官連携コンソーシアム連絡会議

【4 月 20 日（金） 開催：岡山国際交流センター】

中国地域産学官連携コンソーシアム（さんさんコンソ）の平成 23 年度下期連絡会議が開催されました。この連絡会議は、半年に一回開催しているものであり、コンソーシアムの活動報告を行うと共に、今後の活動計画について質疑と承認を得るものです。今回、事務局を除き、コンソーシアムの正会員 7 校、特別会員 5 機関からの参加がありました。会議では、3 月に行った外部評価委員会での指摘事項や、コンソーシアムの自立化などについて、活発に討論されました。自立化を踏まえた取り組みについては、民間企業との連携によって大学等のシーズ情報を全国の中小企業向けに提供する新しい活動についても議論されました。

催し物のお知らせ

○鳥取大学サイエンス・アカデミー【日時：第 2､4 土曜日 10:30～12:00 会場：鳥取県立図書館】

月　日	テーマ	学部等・講師
7月14日（土）	波力発電の現状と将来 実用化に向かう海のエネルギー利用	大学院工学研究科　准教授 有井　士郎
7月28日（土）	ため池を利用したマイクロ水力発電の可能性	農学部　講師　　清水　克之
8月11日（土）	バイオ燃料の現状	大学院工学研究科　准教授 岡本　賢治
8月25日（土）	太陽電池と太陽光発電のはなし	大学院工学研究科　准教授 西村　亮
9月8日（土）	自動車における省エネルギー技術 ―エンジン・ハイブリッド・EV―	大学院工学研究科　教授　大澤　克幸
9月22日（土）	小型風力発電の現状・回るしくみ・これから	大学院工学研究科　准教授 原　豊

（10 月、11 月はサイエンス・アカデミー in Yonago として、医学部、鳥取県西部総合事務所を会場に開催する予定です。）

○とっとり駅南教室【日時：第 1 土曜日 13:30～15:00 会場：鳥取市立中央図書館】

月　日	講　話	学部等・講師
7 月 7 日（土）	数字に見る日本の経済社会	地域学部　教授　小野　達也
8 月 4 日（土）	きのこ学入門	農学部附属菌類きのこ遺伝資源研究センター 教授　松本　晃幸
9 月 1 日（土）	スポーツは人を育てるか？ ースポーツマンシップの行方ー	大学教育支援機構　准教授　上野　耕平

10月6日（土）	地域で楽しめる認知症予防活動	医学系研究科　講師　竹田　伸也

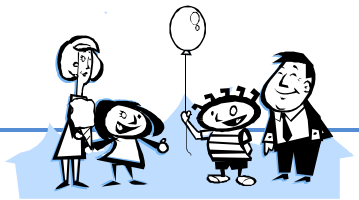
○とっとり産業フェスティバル2012＆鳥取環境ビジネス交流会2012

鳥取県下の大学等の研究成果や、県内企業の製品・技術を広く紹介し、産学官連携の促進及び販路拡大を図り、県内産業の活性化を促進することを目的として次の通り開催いたします。ぜひご来場ください。

テーマ：とっとり発技術、はばたこう世界へ
開催日：2012年10月5日（金）、6日（土）
場　所：米子コンベンションセンター（米子市末広町294）
主　催：とっとり産業フェスティバル実行委員会2012

スケジュール（時間・内容は変更することがあります。）

【１日目】		【２日目】	
＜式典の部＞（国際会議室）		＜展示の部＞（多目的ホール）	
○主催者挨拶	(10:00～10:15)	○シーズ発表会、環境学術研究振興事業成果提示	
○基調講演	(10:15～11:30)	○企業展示会	(10:00～16:00)
＜研究発表の部＞（情報プラザほか）		○ﾌﾟﾚｾﾞﾝｺｰﾅｰ（企業・研究者等）	(10:00～16:00)
○山陰発シーズ発表会	(13:00～17:00)	○とっとりﾈｯﾄﾜｰｸｼｽﾃﾑ合同発表会	(13:00～14:00)
＜展示の部＞（多目的ホール）		＜同時開催＞（多目的ホール）	
○シーズ発表会、環境学術研究振興事業成果提示		○地産地消物販コーナー	(10:00～16:00)
○企業展示会	(10:00～17:00)	○因幡･秋の手づくりまつり	(10:00～16:00)
○ﾌﾟﾚｾﾞﾝｺｰﾅｰ（企業・研究者等）	(10:00～17:00)	○豪華景品付きスタンプラリー	(10:00～16:00)
＜同時開催＞（多目的ホール・正面玄関前広場）		〈景品贈呈式〉	(15:50～16:00)
○地産地消物販コーナー	(10:00～17:00)		
＜交流会の部＞（国際会議室）			
○産学官連携交流会	(17:00～19:00)		



○鳥取ものづくり道場指導者養成講座

【東部地区】会場：鳥取市こども科学館

月日	講座
7月14日(土)	草木染め(選択)
	ものづくり基礎・指導法講座(必修)
7月15日(日)	竹笛をつくろう(選択)
	ワイヤークラフト（選択）
	こんにゃくをつくろう（選択）

◆実地演習について（東部地区）
「因幡・夏の手づくり教室」
【日時】平成24年8月4日（土）
【場所】
コカ・コーラウエストスポーツパーク
県民体育館

○中部ものづくり道場指導者養成講座

【中部地区】会場：伯耆しあわせの郷　郷土民具工房

月日	講座
7月21日(土)	基礎・指導法講座（必修科目）
	残像ＬＥＤディスプレイ（選択科目）
7月22日(日)	木工の基礎（選択科目）
	牛乳ﾊﾟｯｸでﾘﾘｱﾝ編みしちゃおう（選択科目）
	再生紙で器をつくろう（選択科目）

◆実地演習について（中部地区）
「中部・夏の手づくりまつり」
【日時】
平成24年8月4日（土）・5日（日）
【場所】
8月4日(土)：伯耆しあわせの郷
5日(日)：倉吉交流プラザ

発行日：平成24年7月1日＜第29号＞　連絡先：鳥取大学産学･地域連携推進機構
所在地：〒680-8550 鳥取市湖山町南4-101　ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://www.cjrd.tottori-u.ac.jp/
TEL：0857-31-5609　Fax：0857-31-5571　E-mail：ken-somu@adm.tottori-u.ac.jp